

ガラスの思春期

監督 大塚莞爾

脚本

徳田尚子
高際和雄

キャスト

松村雄基

日色ともゑ
梅野泰靖
橋村琢哉

野村信次
鈴木真理
安楽太一

製作総指揮

山村晋平



文 部 省 選 定

製作協力
フィルム・クレセント

ガラスの思春期

脚本 徳田尚子
高際和雄

監督 大塚莞爾

■あらすじ

ある中学校……。ここにもいじめがある。そのモンタージュ、そして新聞のコラム「いじめ」「自殺」などなど。他校から転任し、公立桐が谷中へ赴任する一ノ瀬伸矢(松村雄基)。前任校での事件〈担任クラスの生徒がいじめられ、自殺を計った〉は校長(梅野泰靖)だけに申し送られた。2年2組の副担任を命ぜられた一ノ瀬先生は、ある日、そのクラス内でいじめの芽をかぎつけ、担任や同僚に話すのだが、とりあってもらえず、いじめに遭っている生徒(横山)に近付いても逆に警戒されてしまう。又、授業中、みんなに無視されたと言って突然教室を飛び出していく女子生徒・佐々木一恵(鈴木真理)の後を追いき事情を聞こうとしたが、佐々木はそのまま登校しなくなってしまった。同僚の教師・吉川先生(橋村琢哉)に理解してもらおうと話すが、事態は悪化する一方。一恵の母・昌恵(日色ともゑ)とも話すが、しばらくそのままにして欲しいと言われてしまう。一ノ瀬はふと気付く……。問題なのは、いじめてる側の角田(安楽太一)や赤坂や池上だ。彼等こそ「磨けば光る、ダイヤモンドの原石」なんだと……。

■解説

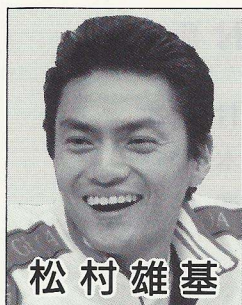
海の向こうの戦争よりも身近な あなたのすぐそばで起こっている もうひとつの「戦争」……いじめ。

この映画が描くのは今の中学校の異様な状況であり、その異様さが既に日常化してしまっていると云う、ちょっと信じられないような現実である。だが、その異様さとは、例えば一部の「暴力生徒」が教師を殴り、学校を荒らしているというようなことではない。それがかつての校内暴力のように分かりやすいものだったなら、あなたも気付いていたはずだ。

ここに背景として登場する子どもたちが不気味なのは、それがどこにでもいるごく普通の子どもたちと云うことなのだ。その普通の子どもたちが、授業中に読むためのマンガを買って登校し、休み時間になると上履きのまま近くのコンビニで買い食いをして、遅刻も早退も、途中で授業を抜け出してまた戻ってくると云う中ヌケも自由で、当たり前のように校内で喫煙し、なんの悪気もなく他人の自転車に乗って帰っていくのである。

この映画は、そんないわば大衆消費社会の申し子とも云うべき子どもたちと教師たちの泥沼の撤退戦がくり広げられている中学校を舞台に、その異様さに耐えきれず不登校となった一人の女子生徒と彼女に救いの手をさしのべようとする若き教師のもう一つの闘いを描くものです。

キャスト



石田庸子	野村信次	有村直樹	平野百合江	窪島利勝	佐々木真理子
木野ひとみ	長井信子	田口尚利	千葉優綺	大谷久修	妻三子
熊倉梢	今野ひろ子	石川隆太	成田英理子	大但秋吾	新谷直子
外園昭治	川野妙子			野口健太郎	渡辺杏奈
				高野泰宏	大星沙耶花

白根眞人 杉山裕美 美根木光 馬場林由 美藤基 小土屋 隆時彦 輝

横山永太郎 山塚友裕 政太 田多 幸洋 輝 野 華 輝 野 純 眞 子 弓 子 美 奈 寺 大 立 山 田 中

程山盛 岸裕也 樂也

穂高町のみなさん 劇団あすなる

資料提供 ジャパンツアーネットワークアース株式会社 常田高士 株式会社ヒル

スタッフ

撮影 寺沼範雄	美術 落合亮司	音楽 山川 繁	助監督 山際知子	協力 長野県安曇郡穂高町	日本コダック	福島音響
円城寺哲郎	山澤克明	主題歌「窓をあけて」	進行 世田一恵	長野県南安曇郡	日本映機	落合プロ
伊東伸久	スクリプター 渋谷康子	(オリエントレコード)	吉田成樹	穂高町立穂高中学校	日本照明	東京現像所
照明 林和義	編集 大高 勲	(作詞 徳田尚子)	デスク 相澤里子	泉郷プラザホテル安曇野		
内田浩策	富永美代子	(作曲 麻生武男)	藤井麗子			
花岡正光	井上孝子	(編曲 松木好文)	藤井麗子	プロデューサー 瀬沼勝彦	製作 あすなる映画製作部	
録音 井上幸雄		監督補 笠倉 隆	飯村昭雄 神 じゅん	協力プロデューサー 相澤 徹	製作協力 フィルム・クレセント	
永口 靖		助監督 神園浩司	スチール写真 中町達也			
		松村和順				製作総指揮 山村晋平